

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

5

福岡県立京都高等学校 (全日制課程)

自己評価					
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)	
学校運営方針	地域のみならず世界を舞台に活躍する将来のグローバルリーダーを育成する。			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
本校は、本校を取り巻く方々(保護者、生徒、中学校、地域、同窓生、等)から、大きな期待を寄せられており、生徒自身も志を持ち入学している。将来のグローバルリーダーを育成するという方向性を堅持するとともに、新学習指導要領への対応もあり、新たな指導体制の構築のため、授業及び課外の大きなシステム変更を行っている。その充実のキーワードを「継続」と「定着」としている。今までの成功事例と、新たなシステムの運用を、「継続」「定着」を図ることで、生徒のさらに充実した高校生活を実現させる。	「京都スタイル」の始動	生徒の主体性、探究心、チャレンジ精神を育成するための取り組みを推進する。放課後課外授業システム「京都スタイル」を定着させ家庭学習時間の増加につなげる。			
	人間力育成を主眼とした生徒指導	教育活動全体を通じて生徒の倫理観、責任感、協調性コミュニケーション能力を育む。			
	教員校内研修の充実	新学習指導要領及び大学入試制度改革に向け、研鑽に励むとともに職員が切磋琢磨し教科指導力の向上に努める。			
	世界を視野に入れたキャリア育成	総合的な探求の時間を深化させ「京都グローバル人材育成プロジェクト」を進化させる。			
	ICTを活用した教育システムの開発	職員全員のICTの活用力を高め、生徒の探求心を掻き立てる授業を展開するとともに、校務のICT化による教員負担の軽減を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
総務企画部	意欲的に自ら学ぶ生徒の育成	モニターシートを活用した学習時間の見える化を継続し、定期的に情報発信を行う。 キャリア教育部・企画庶務部と連携して、生徒が学習意欲を高めるような取組を実行する。	A B	A	・観点別学習評価を確実に遂行する。 ・総合的な探究の時間を主体的なものにし、教科教育の学びの質を向上させる。 ・観点別学習評価に伴う定期考査の意味合いを教員間で共有する。 ・スクールミッション・グランドデザインを共有し教科教育以外の学校の魅力を作り出す。
	校務支援システムの効果的な運用	校務支援システムのマニュアルを整理し、全職員に周知を図る。 担任や教科担当にのっての有用な活用方法について積極的に情報発信を行う。	A B		
	本校志願者を昨年度より増やす	進路相談事業、中学生の1日体験入学、中学校訪問等の広報活動を成功させる。 本校の教育活動をHPで毎週複数回発信する。	B A		
企画庶務部	学校行事の円滑な運営	コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、新しい形態での計画・運営を行う。 データと紙媒体との両方を残し、担当教員の負担軽減を図る。	A A	A	地域や保護者を意識した学校行事の企画立案が必要である。 一人一台端末の導入による教育DXを進展させるとともに情報活用能力を高める。 ICTの活用からDXへの進展を図り、教育手法の変化に対応する。
	情報セキュリティの意識向上	生徒の職員室入室の常態的な禁止を図り、成績などの個人情報保護に努める。 個人情報漏洩などの事例を踏まえ、研修を開催することで教職員の注意喚起を促す。	A B		
	ICT機器の活用推進と校務の電子化	電子黒板を含むオンラインツールの利用方法を、全体で共有し活用推進と技能向上を図る。 エクセルシートなどの改良を行いながら、作成や処理などの業務効率の向上を図る。	A B		
生徒育成部	心身の健全な育成	生徒の主体的な活動を支援し、教育活動の充実をはかる。 いじめの未然防止・早期発見、規範意識向上に向けた取組をはかる。	B B	B	教職員とSC等の専門職員の協働を増やし支持的風土を醸成する。 生徒会の専門委員会の活性化を図り生徒自らが健康を守る仕掛けをつくる。
	健康管理能力の向上	日常的な健康相談や様相・健康観察に取り組み、個々の状態に応じた適切な指導を行う。 新型コロナウイルス感染予防対策(マスク・手洗い・消毒・換気・黙食)を徹底する。	A A		
キャリア教育部	体系的・組織的な進路指導	希望進路実現に向けて、生徒が自発的に学習に取り組むよう指導・援助する。 難関大10名以上、国公立大100名以上の合格に向け、生徒の学力向上を図る。	B B	B	授業と課外授業、校内外模試の目的を確認し具体的な大学受験の指導が必要である。 すべての教育活動目標に京都グローバル人材育成事業の視点を入れる。
	「京都グローバル人材育成プロジェクト」の推進	「総合的な学習の時間」、HR活動の指導計画のさらなる改善・充実を図る。	B		
教育研究部	校内研修及び授業研究の充実	情報管理班との連携によるICTの効果的活用に向けた研修会を実施し、活用技術を磨く。	A	A	生徒アンケートを重視し、根拠のある議論を展開し生徒の学校生活の満足度を上げる。 一人一台端末の活用と掲示教育を進展させ、生徒を褒める場を増やす。
		各教科の研究授業の他、3週間の授業見学週間を設定し、全職員で授業改善に努める。	B		
	学校図書館機能の充実	図書委員会活動を活性化し、学校図書館の利用者および貸出冊数を増やす。 芸術鑑賞を実施し、生徒の文化的教養を高めるとともに、豊かな情操と感受性を養う。	A A		

学校関係者評価		
評価 (総合)	自己評価は	
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
	A	・生徒たちの学習意欲が向上した結果が進学実績につながっており取組は評価できる。
	A	・新型コロナウイルス感染症が収束に向かっており、更なる地域に開かれた京都高校を目指していただきたい。
B	・今後、今まで以上の生徒の主体性を尊重した指導をお願いしたい。	
B	・生徒たちがリラックスして校内で自習できる場所の確保と、気軽に先生に「質問できる環境の構築をお願いしたい。	
A	・更なる学校のDX化を進め生徒と教員が連携して学力の向上を図っていただきたい。	
評価項目以外のものに関する意見		
・生徒たちの主体性を更に尊重し、学校を今よりもっと明るい雰囲気にしていただきたい。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・情報共有・・・様々な情報を広く共有して、総力戦で学校教育の充実を計りたい。  
 ・生徒支援・・・生徒一人一人の活躍のために、さまざまな支援を準備したい。  
 ・地域連携・・・生徒のさまざまな活躍に、地域を活用したい。  
 「情報共有」は、職員の体制上のポイント、「生徒支援」は、生徒の指導上のポイント、「地域連携」は、生徒の活動上のポイントである。これらをキーワードとして、様々な方策を考えていく。また、その強力なツールとして、ICTの活用を推進する。授業での活用にとどまらず、職員、生徒の情報共有ツールとして、有効に活用する。

・生徒たちの主体性を更に尊重し、学校を今よりもっと明るい雰囲気にしていただきたい。